

つくろう、未来を。
つくろう、素材で。

2022年6月22日
愛知製鋼株式会社

第118回定時株主総会 実施概要

愛知製鋼株式会社（代表取締役社長：藤岡高広）は、6月22日（水）、当社本館の大会議室において、第118回定時株主総会を開催し、全決議事項について原案どおり決議されました。

本総会にて、社長の藤岡より、取り巻く経営環境や直近の課題など、株主の皆様の関心が特に高い事項について、現在の当社の考えをご説明しました。概要は以下のとおりです。

1. 目的事項

報告事項 第118期（2021年4月1日から2022年3月31日まで）
事業報告、連結計算書類、計算書類ならびに会計監査人および監査役会の
連結計算書類監査結果報告の件

決議事項 第1号議案 定款一部変更の件
第2号議案 取締役6名選任の件
第3号議案 補欠監査役1名選任の件

2. 社長メッセージ

（1）当社の経営環境について

現在、資源インフレや急激な円安に加え、CASE、カーボンニュートラルなど、従来の企業努力だけでは乗り越えるのが難しい環境変化が起こっており、特に主原料の鉄スクラップ、エネルギー価格の高騰により、当社業績や株価は大きな影響を受けております。

その課題解決に向け、全社挙げての「つくり、買い、売り」の改革を確実に進め、限量経営による「モノづくりの底力」を磨きながら、お客様への粘り強い価格交渉と数量安定確保に努め、安定した収益基盤の構築を目指して愚直に取り組んでいく所存です。

あわせて、創業期から培ってきた「鍛鋼一貫」の素材技術をより一層向上させると共に、次世代社会に貢献する新たなモノづくりに挑む「両利きの経営」、それを担う人材育成に注力し、国際競争力と企業価値を高めながら持続的成長に向け、全社一丸で取り組んでまいります。

（2）元役員らに対する訴訟等の対応について

元役員らに対する一連の訴訟等の対応について、報道等でご心配をおかけしております。

当社は、元役員らによって重要な技術情報の流出がなされたという社内調査により発覚した事実関係に基づき刑事告訴を行い、その後当局により捜査・起訴に至ったものであり、当社の行為は法律の定めに従った正当なものであります。

日本のモノづくりの優位性はすり合わせ技術であり、多くの先達から受け継ぎ磨き上げてきた重要なノウハウです。長い年月をかけ培われた技術情報は企業にとって競争力の源泉であり、これを個人が無断で持ち出す行為が許されてしまえば、日本のモノづくりの基盤が揺らぎ、国際競争力を損なわれることが懸念されます。

当社の一連の訴訟対応は、日本が誇る重要な知的財産の流出を防ぎ、株主の皆様の共同の利益を守るための対応であったことをご理解いただければ幸いです。引き続き係争中の裁判の場で当社の考えをお伝えしてまいります。

本日信任いただいた新体制にて、信頼をいただいているステークホルダーの皆様のご期待にお応えする経営を推進し、日本のモノづくりを守り、社会に貢献できるよう精進してまいります。引き続きご理解とご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。